

【第3回松本市基幹博物館建設検討委員会展示専門部会 発言録】

(敬称略)

開催日時 平成29年12月14日(木) 午後1時30分から午後4時20分まで

場 所 松本市立博物館2階講堂

出席者 松本市基幹博物館建設検討委員会展示専門部会

菊池健策委員、後藤芳孝専門員、櫻井多美江専門員 笹本正治委員、
関悟志専門員、原明芳専門員

野村工藝社(設計JV)

亀山展示分野管理技術者、深野意匠担当技術者

事務局(松本市立博物館)

木下館長、関沢課長、中原課長補佐、船坂課長補佐、堀井主任、
高山主事、千賀主事、

1 部会長あいさつ

菊池：こんにちは。今日は年末のお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。前回の部会のときに話題になった博物館全体の展示計画について詰めをして、さらにそれを踏まえながら常設展示の具体的な資料の紹介なども含めて検討していきたいと思います。今日で次のステップの足がかりが揃うかと思うのでよろしく願いいたします。

2 議題(1) 展示計画について

事務局：(説明)

事務局：説明に続いて後藤専門員から事前に指摘事項を承っておりますので紹介します。

まず今回の議事の「展示計画に関すること」として全体をとおして感じたこととして2点あげていただいております。理念や内部申し合わせ的な表現になっているような感じがするので学芸員として「ぜひこうしていきたい」と言うような表現など具体性が欲しい。また、今回の修正の中で「松本まるごと博物館」の中での位置付けは示されていたが、現在取り組みがある松本市歴史文化基本構想との関連性も追記した方がいいのではないか。というご指摘が全体を通して2点ございます。

このことについて事務局の考えと致しましては、まずこの展示計画ですが展示設計を進めるにあたりまして設計者に対して仕様を指示する、そういったことを念頭において作成しておりますので、現状の記載でご理解をいただければと思っております。また歴史文化基本構想との関連につきましましては、この展示計画が博物館における展示分野に限られたものでありますので、その展示分野での歴史文化基本構想との関りを追加

する方向での修正をご理解いただければと思っております。

少し話がずれてしまうかも知れませんが、今回設計の業務委託の中で基本設計段階では博物館の事業・管理・運営基本方針、実施設計の段階で事業・管理・運営計画というものを検討・作成することになっております。こちらの基本方針あるいは計画の検討、策定をする中では展示分野を含む基幹博物館の諸活動の考え方をまとめていこうと思っておりますので、こちらの方で歴史文化基本構想との関係性については改めて整理をしていきたいと考えております。基本的には「松本まるごと博物館」を具現化する両輪としてソフトに関するもの、どういう資産がある、あるいはどういうストーリーが地域で描ける、そういったことをまとめているのが歴史文化基本構想。「松本まるごと博物館」のハードに関するものが基幹博物館の計画、そういった方向性で整理をしていければと考えております。

続いて「構成に関すること」を(2)でまとめております。第1章の関係で基幹博物館の目的を先に示した上で展示中心の記述を進めるべき、これはご指摘のとおり見直しをしていきたいと思っております。

続いて第2章の関係でも幾つか具体的な修正に関するご指示をいただいておりますので、基本的にはご指摘を踏まえまして修正をしていきたいと思っております。先ほど説明の中で触れましたのが、(2)イの(イ)「7常設展示構成について」で中テーマまで言及し展示の具体化を図ったらいかがか、というご指摘がありますがこれについては第5章のところで追加をしていく方向で修正をして参りたいと考えております。

続いて(ウ)第4章の関係でご指摘をいただいていることなのですが、第4章のタイトル「基本展示の具体的な構成」と振っています。「具体的な構成」というタイトルなのですが、その一方で理念中心の記載になってしまっているので具体的になっていないので見直しをされたい、とご指摘をいただいております。これについては第4章のタイトルを「具体的な構成」ではなくて「基本展示の展示構成の考え方」というようなタイトルに修正させていただきたいと思っております。

それから(エ)第5章の関係ですが、先ほど触れました前段までに中テーマの選定理由がないので唐突な印象を受ける、というご指摘です。ここで反映をしていくということで考えております。

続いて(3)「表記に関すること」として「〇〇のため、だから～～」あるいは「〇〇だから、～～」といったように〇〇の部分の理由付けや前振りがかかり目立つ、省いた方が計画としてはすっきりした文章になるのでそういったところは見直したらどうか、とご指摘をいただいております。

また、文末表現の統一ということで、同じ章立ての中でも「〇〇をす

る。」となっていたり、同じところで「〇〇すること。」となっていたりと文末の統一ができていない等がございましたので、そういったところではご指摘を踏まえまして修正をしていきたいと考えております。

それから(4)として「その他関連すること」で近世以前の位置付けをどのようにするつもりなのか、例えば国府のこと等はどこで扱うという整理をするのか。基幹博物館の導入展示でやるのか、考古博物館での展示に任せるのか、どういう風に考えているのか。何を心配しているかというところと「松本は松本城から歴史が始まるんですね」と言われてしまう、そういう声が聞こえそうなので大変心配しているところをご指摘をいただいております。

この関係につきましては、まず中テーマの選定理由を明示することで一旦整理をすることが必要なのかと考えております。それから常設展示のベースの考え方ですが「資料で語る松本が博物館の役割である」ということで整理をしていきたいと思っております。史跡など現地で理解すべきものについては導入展示からうまく現地に導いていけるように配慮をしまして、現地を理解するための解説表等は博物館でも用意する必要があるかと思いますが、そういった整理をしまして、ベースとしては「資料でいかに語っていくか」、そこを考えて中テーマも選定しておりますので、そうしたところを中テーマの選定理由を明示して対応をしていきたいと考えております。

事務局からの説明と後藤専門員から事前にお伺いしておりました指摘事項、及びそれに対する事務局の考えを併せて説明申しあげました。

以上です。

菊 池：ただいまご説明いただきましたけれども、その前に皆さんに確認なんですけど、先日送られてきました「基幹博物館展示計画最終修正案」には後藤専門委員のこの意見は反映されているのでしょうか。

事務局：まだ反映されていません。

菊 池：また直すということになるわけですか？

事務局：この会の中で諸々のご指摘があるかと思っておりますので、それも踏まえた上で決定したいと考えております。

菊 池：ということだそうですので、最終案の中に更に後藤専門員からの意見が反映されてくる、あるいは反映する必要があるのかどうか。全てそのままというわけではないですが基本的には指摘が多いですからよく踏まえていかなければいけないと思うんですが、その前に「展示計画最終案」を前提にして展示計画について、ただいまの説明についてご意見ございましたらお願いいたします。

原：12ページに「基本展示の動線」「基本展示」のイメージがあるんですけど、こういう形になれば良いと思うんですけど、要するに基幹博物

館の方が大きいんですが本来いくつものネットワークでやると。たぶん後藤先生の指摘にもその部分があると思うんですよね。そのところの兼合いが、どこまでこの基幹博物館が請け負うのか。自然は一切ここから排除されていますし、松本の歴史・文化・自然をどう捉えておいて基幹博物館に戻ってきて最後にもう一回ここに戻してこれれば。枝分かれしているものが戻ってくるのか、そのところが問題じゃないかと思うんです。後藤先生も心配しているのは松本市の博物館ではないものは導入展示にかかってくるんじゃないかと思ったりしています。確かに北部とか弘法山や井川城もここから外れてくるので、その増える分をまわりの他の博物館で優先させていくのかどうか。それを企画展か何かで補っていくのか、そういう手立てをうまく考えていくべきだと。

笹本：今の部分に関しては12ページの絵の下のところに少し説明すべきだと思うんですよ。これではなぜこういう展示になるのか見えてこない。それぞれの館の役割をもう少し示して「だからここではやらないんだ」という説明になった方がいいように思います。

それから常設展示の構成について大テーマについて気になってならないんですが(ア)は「松本城」ですね。(イ)は「山・水・道」(ウ)は「近代化」(エ)は「ものづくり・暮らし・学び」という方向になった時にバラバラ過ぎる。例えば「近代化」が一番気になっているんですけど「近代化」だけは時代区分なので「近代化」でいくんだったら「松本城」も「近世化」になってしまうのか、バラバラに見えているのかなど。「近代化」のところは例えば「商都・軍都・学都」くらいにした方がいいのか、時代区分の言葉をポンと持ってきてそれで松本をやろうとするのは全体からするとまずいのではないか、という気がしました。

菊池：テーマ設定の一貫性が問題ですね。確かに違和感はあるんですよね。

笹本：19ページのところの近代化の具体的な状況の中で「廃仏毀釈」「文明開化」「商都から軍都へ」「蚕糸と松本」という中で一番松本らしい言葉をあげるとしたなら「商都から軍都へ」だと思うんですよね。日銀がおかれている、当時長野県では最も経済が潤っていた。そして軍隊がおかれていた。さらに言うと近代化で並べるんだとしたら松高だと思うんですよね。要するに、このところだけ「近代化」とやってしまうことによって松本らしさが見えてこなくなってしまう。できたら全体的にはもっと松本らしい言葉を並べた方が表題としては良いような気がします。

菊池：そういう気はしますが、後藤専門員からの指摘もたぶん全体を通して(ア)の部分が、中で分かっている人たちが半ば確認事項で書いているという様相が見えてくる。だから大テーマのところはテーマ設定の一貫性を少し配慮した方が良いのではないかと思います。それからこの最終案を読んでいて私も悩んだのは、原専門員からもご意見があったんですが、

基幹博物館が果たすべき役割がセンター館的役割を担うんだと。そうであればそこを明確にして自分のところは大分野をやりますよと。細かいところはそれぞれ分館なりでやって下さい、と笹本先生がおっしゃったように書いておいた方が納得しやすいと思います。

木 下：今回の設計の発注の中で並行してやっていくのに「管理運営計画」っていうものがあるんですね。本来は「管理運営計画」を先に示してその下で「展示」と示していけば、たぶんいま言ったようなことが「管理運営計画」の方で出てきて、その下で「展示」の部分をカチッと覚えて、その部分の解決ができる。最終にできた時にはそういう位置付けになるということで、その部分で謳っていくつもりでいるので進行順が違ってしまっているということがあります。

菊 池：わかりました。そうした意味では松本市立博物館全体を通した構想があってその中でこうなるんだということが明確になるのであればある程度分かるんですけども、具体的にそこが分からなくてはいけない。でないと読んだ人はこれだけで判断してしまいますので。それから最終計画案を読んだ時に表記が少し気になるところがあるんですが、それが直せるのか直せない部分なのか。要するにまるごと博物館構想の中でそう謳っていて変えられないのかが分からない。

それから歴史文化基本構想とこの基幹博物館の展示計画との突合せというのは矛盾が生じないようにして欲しいです。例えば前回例に挙げた高岡の「歴史文化基本構想」と「歴史的風致維持向上計画」を両方読んでいたら明確に言っていることが違うわけです。ですのでそういうことが生じないように案の突合せが必要だろうと。全部やる必要はないです。展示計画で歴史文化基本構想に触れているところが入っている部分だけ確認をしたらいんじゃないかと思います。それをやらないと同じ市が出すのに全然違うことを言ってしまったら困るので、ぜひ最終確認をお願いします。そうすると、これは直せる文章だと理解してよろしいですか？

木 下：はい、そうです。歴史文化基本構想と基幹博物館の関係についてですが、堀井が説明したように私どももしっかり整理をしなくてはならない段階にきていて、たまたま12月議会の質問にも出ているんですが、その中で外に向けて答弁をさせていただいたのが「まるごと博物館構想を受けて、その両輪として大雑把ですがソフトとハードだ」というような言い方をしております、ただし歴史文構想で価値を見いだしてきたそういう関連文化財群については当然、基幹博物館、分館も含めてそこをフィールドと見てそういうところで活動をしていく人たちの拠点になれば良いし、そういうものを一般のところに情報を広める、そういう役割になっていかなければいけない、そんな位置付けがある

と思います。一方、歴史文化基本構想の中では文化財保護のマスタープランという形で作っているんで博物館が担うべき役割ということで、ずっと「まるごと博物館構想」の下でやってきた人の育成みたいなことを言っていて、そののところでは整合がとれる形になっていると見ております。どちらも頭の部分で管理運営計画の部分の部分を言うておくことになると思いますし歴史文構想も最初の部分で触れていく、そんな形になると思います。

菊 池：もうひとつですが、先ほど笹本先生から指摘があったと思うんですが大テーマ・中テーマ・小テーマの設定の仕方にも及んでいくだろうと思うんですが、そこを一貫性みたいなもの、脈略をきちんと取るということについては他の方のご意見はいかがでしょうか。

木 下：事務局の方でも話をして「近代化」っていうのはこれでいいのかってみんな引っかかっているんですね。

菊 池：笹本先生、どうでしょうか。

笹 本：さっきの話のとおり、もしこれでいくんだったら一番分かりやすいのは「商都から軍都へ」あるいは「商都」「軍都」さらにやるんだったら「学都」この3つでやっていくのが一番説明しやすいんじゃないかと。今までのところと言えば、例えば「山・水・道」が3つ並んでいるところもあるし「ものづくり・暮らし・学び」3つの並びからすると「商都・軍都・学都」という並び方が綺麗じゃないかなと思います。

木 下：松本市で禄を食む身とすると「3ガク都」1つの「学都」の切売りをすることがあり得るかというのが頭をよぎったんです。

菊 池：表記を漢字から別の表記にする手はあるんじゃないですか。

笹 本：私たちがやらなきゃいけないのは松本市基幹博物館の展示計画なんですけれども、先ほども言うように他のところにも影響が及んでいるのかどうか。本来ここは新府であって国府があったっていうのが一番重要なところなんです。ところが松本城から始まるっていうことは後藤さんが言われるように古いものを切ってしまう。考古博物館は古墳までが中心であって中世が切れちゃうんですね。ということは逆に先ほどのそれぞれのところの役割を分担した時に、何が足りなくて何をやってるかをここで調整できるかどうか。それをしない限りは、例えば、いまやっている井川城の発掘だとか松本市にとって重要なものが全部切れて松本城以降の歴史だけになってしまう。松本城以降の歴史だけだったら困ります。この場合だったら松本城の前史の部分がそういう意味で大きく取れていますよ、というような補いがないとまずい気がします。

木 下：いまの話で具体的な部分かと思うんですが、分館という位置付けで考古博物館があるんですが少し行政で見直しをしていて、掘ったところが情報発信した方がより正確、一元管理ができるというようなことがあって

文化財センター方式に移行して組織としては博物館ではなく文化財課の方に移管をしようという考え方で行革見直しの中で動いているところです。

もう1つは、これまでの考古博物館は中世までが対象で線を引いていました。なので、城下町の発掘をしたものはこの博物館の地下で展示している状況です。ただこれについても発掘調査をするのは、文化財課あるいは史跡整備の関係、南外堀整備の担当、どちらにしても文化財課が携わってくるということがあるので所管の見直しに合わせて考古博物館の常設展示も少し部屋を増やししながら近世まで扱うようなかたちにしたいと検討しています。

もう1つ、先ほど堀井から申しました「松本をモノで語るというのが博物館の役割」という言い方なのですが、国府は展示するもの少ない。ここら辺のところが国府だというものが見つかって資料が沢山出てくればセンターとなるこの基幹博物館の展示テーマに入ってくるだろうと。ただし、今回の展示計画では20年を一区切りとしてその内の更に半分の10年まで確定をします、という言い方でこれを作らせてもらっている、その中では国府というものが基幹博物館の中で扱うテーマとしては資料の量からして難しいという判断で、いまそういう見解でいます。

菊池：よろしいでしょうか。ただですね国府をどうしてもということではないと思うんですね。国府は象徴であって、古代から中世までの歴史をどう扱うか。考古博物館が展示替えて中世までは考古博物館でやっていって近世以降は基幹博物館に設置しようとなるわけですね。その時にどっちがより具体化できるか、今の基幹博物館構想の中で言えばこの博物館が担当している時代をそのまま引き継いでくる方が説明しやすいのかと思うんですけれど考古博物館は扱う時代をそんなに簡単に変更することは可能なんですか。そうは言いながら考古博物館、基幹博物館で長い歴史の一貫性を持たせた方がいいと思うんですね。国府だけにこだわらなくて国府は象徴で、中世の歴史をどうするか資料で示せるかどうか検討は必要なのかと思います。

木下：申し訳ありません。特に国府にこだわったわけではありません。国府という事例が挙げられていたので説明をさせていただいただけのつもりではありますが。

笹本：逆に山城をどう歩かせるかどうか、ツーリングやなんかのことも段々出てきてる中で、中世のやり方をきちんと色分けされていけばいいんで、そこのところをしっかりされているのが大前提です。もう一方で言いますと再来年私どもの長野県立歴史館の25周年企画の1つは小笠原氏です。小笠原っていうのは日本の中で特別な役割を持つので。小笠原っていうのも色々ある中で中世では扱い方が難しい点があるの

で簡単にやってしまうとまずいだらうと。それは逆に私の目から見ると馬場屋敷は近世で近世の展示をやっていると。そうすると、どうしても出てくるのが松本は松本城、馬場屋敷、開智学校のような近世・近代ばかりになってしまうのはまずくないかと。しかも今回司法博物館もああいう評価になってきている訳ですから、どうしてもこちらの方に色を付け過ぎている感じがしないでもない。一方でいま長野市には完全に水をあけられてしまったと。そこら辺を加味すると今回のものを見ていても全体のまるごとの中の位置付けとして「ここはこういうものを持っていて、だからこの展示なんだ」という役割が皆さん言っているとおり明確になると私たちも説明しやすい。私たちは何かあった時にいろいろ説明していかなきゃいけないんです。

原：やはり理由をしっかりと明記することが大事だと思います。共通の資料は一切無くなっちゃうのか、中世以降の物はどこで展示するんだらうと心配しています。整合をとってもらって、中世までの世界を展示する説明を上手くできて繋げられるかを導入のところに示していただきたいなと思います。

木下：より分かりにくい話をしてしまうと、基幹博物館の対象は年代を区切っていないと言っています。近世以降は扱いますということは言っていないで全部だと言っています。現状を資料を見て展示をしてテーマを組んでいくだけのものがないのか、例えば「国府」みたいなものが出てきたらどこに絡めて展示をするのかと言えば「山・水・道」かなと思っています。これ時代性がない。「立地」ということからここに「国府」。あるいは松本城だけは違った意味で大テーマが一つあるんでそれ以外の4つでどこかに当てはめることを考えるとそういうことかなと担当レベルでは整理しています。

菊池：いまの説明を聞いているとやはり松本城はテーマ設定の中で難しいんだというのが改めて分かるんですけど、結局基幹博物館が言おうとしているのは松本城は避けて通れないとすると、松本城のインパクトが強過ぎるわけです。基幹博物館が全時代を通じてやるんだと言いながら実際のところは見学をした側はどうしても松本城のイメージが強くなって、松本＝松本城で終わってしまう気がします。だとするとテーマ設定みたいなものを観光的に考え直さなきゃいけないと思うけれど今更そうもいかないだらうし、やはり考古博物館と繋がる歴史を展示する博物館としてあるいは文化を展示する博物館としてはそこをどううまく繋げるかという工夫が必要なのかな、それが大テーマで示さないとなかなか分かってもらえない。中世何もないならいいんですけどそうもいかないだらうと思うのですが、これが近代化のところと一緒に考えなければいけないだらうと思うんですけども、もう1

回ここは皆さんからご意見をいただき詰めていかなければと思います。

笹本：逆に最初のところの書き方の中でこの館の役割と、例えば馬場屋敷においては江戸時代の生活をやるから（ここでは）やらないんだとか、考古博物館ではこういうことをやってもらうんだという役割分担、それから基幹博物館の中で例えば当たり前の話ですが自然を扱っていないがそれに関しては少し触れておくとか後から分かりやすくなるなど。そんな風に入れて説明していただければ問題ないと思うんです。これ自体に問題があると言っているわけではなくて基幹博物館の展示計画を読んだ時にどうしてこうなるのかという説明責任がついていけばいい。説明責任がややもすると少ない感じがするので原先生の最初のご意見かと理解しています。

原：2ページの4の「基幹博物館の展示の松本まると博物館での役割」、このところの内容だと思うんです。このところをもっと明確に出してもら方がいいかと。「まると博物館はこんなことをやっているんです」とうまく説明できないとまずいかなと。歴史の方はこんなところでやっているんだと書く方がいいかなと思います。

木下：館の名称しか出ていないので、それぞれの分館の担う機能をもう少し丁寧に説明をしていくということですか？

原：後藤先生は松本城以降と言っているの、その前まではどうしていたか書いておいた方がいいのかもしれないですね。私もこれでいいと思うけれど、その中で具体的なものが必要かと思えます。

菊池：おっしゃる通りだと思うんですね。2ページの4の(1)のところにもう少し書き足して基幹博物館、センター館とサテライト的な位置付けでするのかということもここにもう少し書き足せば分かるのではないかなと言う気はするんです。

笹本：18ページ「山・水・道」とあるんですが長野県の象徴は5つあると言ったら「善光寺」「諏訪大社」「松本城」「上高地」「軽井沢」とあるんですが、ほとんど松本を中心にして拡大しているのに「上高地」には触れてなく思いやりが見えないです。なので「山とともに」のところにも例えば「林業としての上高地」とか意図的に入れた方がいい。

それから地元住民に対しての配慮が足りないのでは。全市のものだと言いながら取り上げられているもののほとんどが依然として旧市内の松本のイメージでしかない。大テーマで松本城主となっているが出てくるのは松本の中心部であってその次の「山・水・道」ここら辺り我々の地元が出てくるんじゃないかなと思えばあまり出てこない。「近代化」のところも周辺はほとんど関係していない。「ものづくり・暮らし・学び」の部分でもどうしても中心部分のことが出てこざるを得ないのかという気がしているんですよね。もう少し対応できないのかな。

菊 池：いかがでしょうか。

基本的なところを教えてください。「上高地」は松本市なんですね。

笹 本：一般的に県外の人から見たら信州にとって一番の観光地は上高地ですよ。

菊 池：「近代観光地」というところですね。

笹 本：そうですね。それを全部抜いてやるっていう自体が間違えではないでしょうか。

さらに言うと、「近代化」の中に養蚕があって養蚕の中の【(音声不明瞭)】そういったことがみんな消えてしまうのは弱いんじゃないか。

菊 池：今の話で言えば近代蚕糸業の発達の中で不可欠な部分ではあります。

木 下：中テーマがいまのところ丈が揃っていません。

まずは開館当初に行う中テーマを限定にしてちょっと詳細に描く。それ以外の中テーマは現在2つしかないところを10年の計画にはもつとないと足りないなのでその部分を補って書く。その中にご指摘をいただいた部分をきちんと文字として出していかなければいけないと整理しています。

笹 本：10年は大事なところだけでも、逆に言うと10年後はどうなっているのか。私が強く感じているのは今度「田中芳男展」をやるにあたって飯田の美術博物館はパリ万博でお土産で持って来たスプーン1つしかなかったのが、ずっと独自のものを集めた結果として美博だけで展示ができるようになった訳です。漫然とやっているのではなく、うちとしては10年経った時この辺に力をあわせませす。つまり10年間の間にこのような資料を用意しますとか決意がないと実際問題として何の進歩もないです。うちの館の場合は、いまある常設展示に関する資料を集めているだけだから新しいものは何もできないです。10年先を見るんだったらば「〇〇に特化した資料を集めていきます」とか書いてくれないとまずいんじゃないかと思えます。

木 下：それは「展示」ではなくてその部分も「管理・運営」のところで大きく館の方針というものを謳わなければいけない。そうでないと資料収集もできないので当然そういうことは承知しているんですが、ここではなくともう一つの方で書いていくべきかなと考えております。

菊 池：中テーマの表記の付け方をもう少し工夫された方がいいです。タイトルの付け方を統一した方が分かりやすくなるんじゃないかと思えます。

「山・水・道」「近代化」も含めて中テーマの考え方をどうするか、これから先博物館は何を目指していくのかということに触れるということですから、次の活動を説得性を持って説明できないんだったらそれは「管理・運営計画」の方で触れていただいた方がいいと思えます。この展示部会の要望ではないんですが、そういう意見があったという

ことはどこかに触れておいて欲しいと思います。

他にご意見ございますでしょうか。

先ほど笹本委員から出た松本城下以外のものをどう扱っていくかを少しどこかで見せておかないと城下ではない方々から不満が出ると思います。

笹本：今度の最終展示案の時に分布状況を見せて欲しいです。つまり説明できるように旧城下町だけが展示されているんじゃなくて全体のうち「こういうところにはあえてこういうものを展示しています」という全体分布図をできたら見せてもらえるとそれだけで説明がつくので。

それから逆に言うと、展示がされていないところは意図的にここら辺で補うっていうことをしていかないと博物館としてバランスがとれない。博物館はあまりバランスではないのかもしれないけれど、新しく入って来た人たちにとっては、例えば「なんで四賀村が出てこない？」という疑問に答えられるような展示にしていきたいと思うので、手法としてですけれども、これから展示する展示品の相関関係を作る図を示していただければと思います。

菊池：たぶんそれは、これから先具体的に展示設計に入っていく時に想定された資料が旧市内で言えばどこの資料か落とし込んでいけばいいということですね。展示計画についていくつか基本的な考え方のご意見が出てきていますが他にごございますでしょうか。

関：この資料を拝見し大変ご苦労いただいているなと感じております。お話にあった市の全体的な教育行政の位置ですとか教育行政の中での博物館関係の政策の位置付けを管理・運営計画の中で作成している基幹博物館や各博物館の役割や関係性が変わってくると思いますので、その辺のダイジェスト版を2ページのところでいただければ十分かと思っています。全てをここに突っ込むのは難しく、入れれば入れるほどタイトな資料になって逆に分かりづらくなるのかということもありますので、詳しいところは管理・運営計画の中を参照いただく形というのがよろしいと思います。

展示の具体的なところを申しますと11ページの中に全体的な展示の考え方の模式図がありますが、エントランスを入った導入展示のところで、いまあがっている、例えば自然史・人文系で全体的な松本市の歴史・自然の紹介ができればいいかなと思います。ここで松本市全体の編年史を紹介する中で各分館での役割、扱っている歴史それから基幹博物館の方でメインとして扱うものを紹介されて枝分かれしていくのかとイメージしています。

それから、自然に関して言えば先ほどお話があったように「山」というテーマもありますので、例えばフィールドを紹介するようなところで、

上高地それから乗鞍方面の山の歴史が近世以前にありますので、そういったところも「自然」のところで紹介できればと思います。

あと「民俗」の部分で暮らしにつながる文化のところ、これが一番現在の暮らしにつながるところでもありますし、市民も身近な生活などところにつながりを持てる場所だと思いますので、こういったところで具体的な紹介をしていただいたところで、博物館の役割ですとか各博物館の資料・コレクションとの関わりをそこで大きく説明した上で詳しくは分館の常設展示へ案内ができるような導入展示になればいいなと思います。

菊池：ありがとうございます。他にございますか。

櫻井：小中学生がここでいただいている博物館パスポートで見ると、ここは「まるごと博物館」のスタート地点という位置付けで博物館を新しくやると思うんです。なのでいま他の博物館をどうこうできないと思います。例えば、考古博物館が大きく変わることはないし、個々の博物館はそれぞれの良さがあって展示がされているので、そこでは補えないものというかスタートができるというか、ここに来た方々、観光客も含め私たち学校の子どもたちもそうなんですけれども松本市立博物館がスタート地点でいろいろなところに興味を持って行かれるということを考えると、あまり子ども子どもってことではないと思いますけれど。では尚更何をメインに持ってくるのが大切だと思うんです。パスポートに出ているようにスタート地点を松本市立博物館とどうやって関連させてお客様が何に興味を持ってどう導いていくのが大事だと思いますので、そのところを具体的に教えていただければと思います。

木下：分館はこの機会に大きく手を入れることは・・・という話なんですけれども基幹博物館で大きなお金を使って整備をしていくということであるから、そういうことなんだろうと思う反面、おそらく一緒に基幹博物館の機能を見直します、という言い方でやっているんですがこの機会を逃すといつやるのかという心配もあって大きな課題を持っている施設については一緒にこの機能を持たせたいと言いながら、少し動かしていくようなアクションをこちらとしては起こそうと思っています。実現できるのかと言えば財政的な事情もあるので、とりあえずここできちんと課題を整理してここはこのままじゃ駄目だよと内外に言っていないと変わらない、全体は良くなるのかなと思っています。

笹本：先ほどのテーマ設定の部分と11ページのところの関係が良く分からないんですけれども「松本城」を中心に置いて「山・水・道」「ものづくり・暮らし・学び」「祈りと祭り」は分かるんだけど「戦争と平和」はさっきの部分でいくと「近代化」の部分になるんじゃないかと。全体としての流れが見えていないのと、もう一方は補助テーマという言い方を

して出ているんだけど、ここできちんとやるんだったら松本城は本来「戦争と平和」のための武器なんですね。松本城の武器的な部分が一切排除されてこういうところだけにポツポツ出てくるのは、むしろおかしくて、「軍都」というところの中でさえ「戦争と平和」はすべて入ってきているのでテーマがしっかりしたものを展示の中である程度説明してくれると展示らしくて、それを変なところで切り分けていく必要はないんじゃないかと思います。例えば「青山様とぼんぼん」を「軍都」の方に持っていても全く問題ないわけだし、テーマをいくつも設けることで分散してくるとすると、逆にテーマの中に何を入れ込むのかということをしっかり持っていた方が私としては説明がしやすいように思いました。

菊 池：いかがでしょうか。

笹 本：11ページの「常設展示」のところのアレがさっきのテーマと合っていないです。しかも本来だったら私は「戦争と平和」だったら私はすべてのところで関わっていた方がずっといい。「道」ひとつ取ってもほとんどは「戦争と平和」に関わってくるし、「ものづくり・暮らし・学び」も全部関わってくるので、むしろ「全体を通して実はこのテーマを持っています」と削った上で各テーマから始めた方がいいんじゃないかという気がします。

木 下：逆に質問なんですけど、きちんと書いていないからいけない部分があるんですけど、施設構想の時に出来てきた図をそのまま使っているだけなんです。それを「時点が変わったので合わせておかないとまずい」みたいなことは当然出てきてしまいますかね。

菊 池：この展示スタイルを展示計画最終案で言っている大テーマと合わせないと確かにおかしいです。

笹本先生がおっしゃるように「戦争と平和」は全部に関わるということであれば展示の趣旨も謳わないと。ただテーマを見ながら実は少し気になっていたことがあって、松本っていうのは周辺の市町村の目的地です。例えば、糸魚川から言えば白馬峠を越えてぐるりと大町を出て松本へ行くのは歩荷の人たちの一つの活動の目的じゃないですか。そういう視点、要するによそから見た松本というのもこの中に入ってくるだろうなと思いついて見えていたんです。野麦峠を越えて松本へ来るのも飛騨の方々の思いでしょうし、そういったところから松本の「商都」あるいは町場としての意味での位置付けが浮かび上げられるんじゃないかと思うんです。そういったところもこれから少し展示計画も含めて設計をする時に考える。たぶん「山・水・道」の中に入ってくる話なんですけど、そういったところで中テーマを考える設定もあっていいのかなど。あるいは10年後にするなら10年後にそういうのが出てきてもいいのか

など。

笹本：いまの先生のお話だと、1つは11ページのものは大きな枠組みとして作るっていう話であって、実際に展示しようとしたら展示計画をやっていたら当然変わって来ていい話だし、それが無かったら良い展示はできるわけがない。だから展示する方からそれは言ってもらいたいです。

それから、2点目は菊池先生とおそらく私もそうだと思うんですが、観光客の目というのも大事であって、ここに出てくるほとんどのものが松本の中心地に住んでいる人の中心的な考え方であって、周囲から見たときに松本はどう見られているか、そのような意識がこの中にほとんど見えてこない。先ほどの方も含めての物の動きって松本を目的地にするという部分を視点の中心に大きくあるべきだというのが、ここでは逆に行き交う情報、物資というのがここにはない、そのようなことも含めて視点の中に入れていただけると分かりやすいと思います。

ただ、先ほどのお話の通り10年後にもう一回ということがあるとしたら、それも含めて展示予定の中に入れておかないと今のうちから注意しておかないと大変だと思います。

菊池：他にはご意見よろしいですか？

それでは、いままで出た意見、それから後藤専門員のご指摘も踏まえて松本市基幹博物館展示計画の最終修正案の修正をしていただいて、これはもう集まることはないでしょうか。

事務局：まだ数回あります。

菊池：そうすると、その修正案を作っていただいて、それを確認した上でということになろうかと思うんですがその作業を少し進めて、で今回の展示計画については皆さんのご意見はそれでよろしいでしょうか。

何か色々なところで今回の展示計画、一番はいま言っておかないと反映できないということを意識しながらこの基本計画を確定していった方がいいというご意見だと思うんですが、それを今日の意見、後藤先生のご意見を踏まえて作成し直していただいて、もう一回検討する機会がある。大まかではこの計画でよろしいでしょうか。

笹本：ちょっと確認だけ。

18ページの「温泉」の中に私のイメージだと白骨とか周辺の温泉が見えてこないところがあるんですけども、それは新しいことだからなんですか？出てくるのは浅間温泉とか旧来のところが見えてしまうんですけど、その辺で何か意図がありますか？

事務局：それは次の議題のところ担当も来ておりますので、詳しくお話しできればと。

菊池：それは常設展示の内容についての説明があって、意見を言う機会があるということでもよろしいでしょうか。基本、展示計画については先ほど決

めたような形でもう一回説明してくれる。それで大まかな考え方としては了解ということでよろしいでしょうか。

木 下：部会長のおっしゃった通りなんですけれども、この時点この時点で前回のときもこれで一応見直しも平行して進めさせていただきますと了解を取らせていただいた、まさにそういうことで。ただこの時点で私どもはご指摘いただいたことで了解したことはここに反映して「このときこれを了解したのでこういう風に進んでいます」と確認も戻させていただきながらで、最終的にこれをいつまでできなければということはないのかなと思うので「基本設計が上がった段階ではこういう認識でいました」といったものがその時点で残ればいいかなと思います。

菊 池：今日の基本展示計画案について、そういった意見を付して方向性としては了解ということで考え、次の詰めをしていただいて、とりあえず一番の展示計画についてはそういうことで、今日のところはこの辺で休憩に入ります。

3 議題(2) 常設展示内容について

事務局：(説明)

菊 池：ありがとうございます。いま説明してもらった展示計画の中で示されました大テーマを構成する中テーマとして考えなきゃいけない、小テーマもいくつか入ってきている訳なんですけれども、これらの案について質問ご意見ありましたらお願いします。

笹 本：「松本城」のところで、何でそんなに松本城主を取り上げるのか個人的には反対です。特定の城主だけをやることは間違いでして「松本城」と言っておきながら松本城が出てこないですよ。よそから来た人に松本城のどこを見て欲しいのかだとか、松本城の技術的な特徴がどこにあるのだとか、本来松本城という大テーマがあるんだったら松本城についてもっと論じなければいけないんじゃないかと思います。にもかかわらず殿様ばかりやっていて松本の人たちはどうかと言うと城下町が出てくるだけで、例えば「松本城」をやる時には松本城を作った人たちの知恵がいっぱい入っているわけです。だからこういう形でいったら観光客や市民にとっても面白くないとまず最初の部分で思いました。

それから、「山・水・道」に関して言うなら私は犀川通船っていうのは重要だし、そこのところに折井家の問題があるわけだから出てくるのが「道」だけで本当にいいのかという問題があるだろうと思います。

それから、その形でいった時に後の問題がどうなるのかということもあるんだけど、中央線というか線路の問題も多面的なものの見方か

らするとここに出てきているのは古い街道の話だけでももう少し視野を広くすることができないのかなと思いました。

それから、「戦争と平和」の部分に関しては先ほど言ったように松本城に関しての説明がないのもあるんだけど、松本城の方に太鼓門の方からわざわざ曲げて入れていたり、あるいは枡形が大きく作られているということは戦争用なんですよ。そういったものの見方をさせてやらなかったならば松本城は単なる観光地として来て見て帰る、「山とお城が綺麗だったね」だけみたいな話になっていくかと思うんです。そういう意味でももう少し大テーマに即した時に、本当に何をやられているかということをしかりと考えて欲しいと思いました。

それからついでに、いま1階にあるジオラマは使うのか使わないのか。アレ自体が極めて重要な歴史性を持ったジオラマだと思います。そういうものが全部新しいものになっていくだけで本当にいいのかということが気になります。

もうひとつ、言葉を作り過ぎではないかと思うんです。個人的なものなのかもしれないですが、カタカナで言葉がずらっと並ぶのは好きではないです。一般の市民に向けて説明をする時にはきちんとした日本語で説明をするべきであって、説明をされると面白いかも知れないけれどカタカナ（造語）はできるだけ避けるべきではないかと思えます。以上です。

菊池：ありがとうございます。基本的なというか根幹的なご指摘です。

ひとつ言よろしいでしょうか。おっしゃる通りだと思います。民俗学というのは基本的にカタカナを使いたがるんですが、なるべくカタカナでなくて済むものはカタカナではない方がいいので少し検討した方がいいと思います。

それから松本城主、松本城の話で言えば殿様の紹介で終わっているところが多いので、そこから一步踏み出して欲しい気がします。

いまの笹本先生のご指摘に対する答えはありますでしょうか。

事務局：まず、松本城自体の説明については前段の展示計画のところであったご協議と関わるんですが、松本城の天守がありますのでそこで大きく話をして、構造や建築上の工夫は実物を見ながら学んでいただきたいという意図があったので最初の段階で検討から外してしまっていたというのが実情です。城主の関係を特に絞ってということについては、例えば、彦根で言うところの井伊家とかいうことが松本にはなく、どういう人が居たのかが分からないことに答えるということをまず一本目に考えました。展示計画を10年で見直していくという中で、中テーマも固定的ではありませんので変えていくということはしかるべき中ではあり得るので、担当としてはまず松本城主というところの評価はしっかりと位

置付けをしていきたいという思いを持っています。

笹本：松本城が大テーマだったら松本城がいかにかにできたか。本来でいったら石川氏の特徴をしっかりとやった上で金箔瓦だとか特徴をきちんとと言わなかったら現場では見られない。それで今までの話の中では観光客に見てもらおうという言い方をしているけれど、でも観光客以上に市民の皆さんが頻繁に松本城に入らないとしたら松本城のどこが重要なのかということはやるべきだと思います。

それから、殿様を知られていないんだったらそれが特質なんだからそれで十分じゃないでしょうか。井伊家と同じになる必要はなくて中世から先に最初に入ってきた小笠原家の部分だけ説明すればいいんで、人から尋ねられたならどう答えるかということを考える前に、大テーマ「松本城」という時にわたしの松本城がどこに特徴があるのかということがほとんど触れられていないんです。「見せたいのが一体何で何を主張したいのか」という視点に立った場合には、まだいまの説明だと納得いきません。

原：松本城って何だろうという話で政治の拠点だとか経済中心だとか大きくとらえてやった方が面白いと思います。後で商都とか繋がってくるところをしっかりと持ってくる。「松本城からまっすぐ繋がる大きな街道が通っていく豊かなところ」というところがどこかで分かるようにやって欲しいと思います。「松本城はどうしてできたんだろう」というイメージです。

笹本：私たちにとってお城というのを特定の殿様が造ったという風にはしたくないです。正常に利用するのが特定の人だったら松本市中に並べればいいんであって、そうではないところが「わたしたち市民の博物館の意味」じゃないのかと思うんですよ。それを殿様の名前を並べるパターンを繰り返している自体が新しい視野視点でものを考えていこうというときには弱い。

原専門員が言われたのは元々街道の問題があったりもっと前から深志城の段階から重要な交通路がある事が前提で、あそこにあるならば、なぜあその場所でなければいけないのか、そして例えば石一つとってもどこから運ばれてきてどういう風に造られたかというのが私たちにとってはずっと重要で最後までなぜ松本城が残ったのか、市民のシンボルとしての問題は殿様の問題ではないと思うんです。

現実問題として殿様はどうでもいいわけで市役所で言うならば市長が替わっても市役所は残っている、にもかかわらず市長のことばかりやるのはいかななものかという気がします。

事務局：前段の「経営基盤づくり」という表現の中でインフラ整備について紹介を考えていたんですが、その中で松本城の立地として街道をおさえると

か、あるいは江戸の徳川包囲網の関係の中で配置をするということは触れていこうと考えています。

笹本：それ自体違うんじゃない？対徳川っていうのは経営の問題では無く軍事ではないですか？そこら辺がごっちゃになっていて「戦争と平和」という補助テーマがあるとしたら、松本城は最もシンボルになるものです。今回の博物館のシンボルも松本城とすると松本城に込められた「戦争と平和」、例えば外側から見た時に大天守と小天守以外に月見櫓が入っていることが平和の象徴だと宣伝するわけでしょう？だとしたらそういうようなことを中に入れながら「松本城」という大テーマがあるべきです。

菊池：たぶん「松本城」という大テーマの設定の仕方がとても難しいのでその中であれもこれもと考えると従来の近世の支配体制の説明から抜け出せない。福島県でもそうだったんですが、あそこは会津若松博物館、会津の人たちからして近世以降しか頭がないんですよ。でも大きな町の作りは近世ではないです。そういう意味では殿様だけを見ていくと歴史が変わってしまう。せっかく色々な可能性を持った松本城という大テーマを作ったのであればもう少し広い視野で考えてもいいのかなと思います。笹本先生がおっしゃったように「松本城っていうのはどうしてこうなったんだろう」というところなんですね。お城の造りであり、構えであり、天守閣の造りの問題もあるんでしょうけれど、そういったところも中テーマなり表に出てきた方が分かりやすいかもしれない。コンプリートされてこれでできます、となったときには訂正しようがないので、いまの時点でこういった意見がでてきて良かったと思っています。

要するに、いろいろな見方があるということで、それをどう取り込むかということが新しい博物館の展示を作るときに一番先に考えなければならぬだろうと思います。他にご意見ありましたら。

笹本：いまある古い松本城は活用するんでしょうか。あれこそ、博物館が新しくなるからすべて新しくなるような発想はやめて欲しいです。あれだけのものがあるってことが歴史の中で大変なことであって宝物だという気がします。

菊池：ジオラマは分かりやすく面白いですけれども、小さいところが頻繁に折れたりして管理が大変なのではないでしょうか。分割する案もあったと思うんですが、繋がっているところを離すだけなのか分割したところをジオラマから抜くのか、それによってイメージが変わります。昔博物館を作った時にジオラマを作ったら少し隙間がありました。そしたらその分の地形をきちんと落としてくれたんですよ。そうするとくっつけた時に合わないんです。何でだろうと考えて逆に質問が来て

面白かったです。やり方がいろいろあって人が中に入る、ジオラマの中に入ってもしょうがないんじゃないか。実際に入っていく目線で見ないと面白くない。川越市立博物館に川越城下の町並みを人の目線で模型を通った時にどうなるのかというのを示してくれたんですが、ジオラマとカメラで見るのは面白いと思うんです。余談でしたが、ジオラマは管理が大変だと思います。

木 下：城下町模型は大事なものだと思っています。中でもしっかり結論を出していませんが、城下町を語るだけではなくてあれを作った先生方が50年前にどう思ったかということでも貴重なものだと思っています。

笹 本：そこが謳われていないです。変な言い方ですが過去に作った人たちの思いを受け継いでいないと思えるんです。博物館を作る度にどこもリニューアルするんだけど、最初につくった人たちがどんな思いでやったのか、それを今回の博物館はどういう受け取り方をして次の時代に伝えていくのか、という意味で自分たちがトップだという考えは大きな間違いで、そういう意味でジオラマの問題を言っているわけです。

いつの時代も「みんなのために」と博物館をつくるためにもの凄い努力している。その努力の状況を受け継いでいくべきなので、ジオラマはその中で使える可能性があると思うと木下先生が言われるところだと思います。

菊 池：あのジオラマは記念館が出来た時に作ったものですか？

木 下：直後ですね。

菊 池：模型は十分文化財ですね。兵庫にある姫路の射楯兵主神社というところがあるんですが、ここの60年に一度やるお祭りが有形指定で、これがてっきり実物だと思い込んでいたんですが模型だったんです。何で模型を指定したんだろうと思ってしまったんですが60年に一度しか見られないんですが大事な資料なんですね。

笹 本：もう少し方策を考えていただきたい。私たち博物館にいる人間としては我々は常に超えられているんだけど、超えられている時に越えられる者の思いだけはきちんと伝わるようにして欲しい。しかもここは戦役記念館という特殊な作り方から出発しているわけだから、そういうものを全て含み込んでやっていくべきなのでジオラマの問題はできたらいろいろお考えいただければと思います。

菊 池：評価の仕方がいくつかあるんだろうと思いますが、ひとつはジオラマを博物館の歴史として展示をしていく使い方もあるだろうし、今の段階だったら昇華の仕方があるだろうと思いますので色々な意見を言っていたいただきたいと思います。

- 原 : どうしても資料が城下町に偏っている感じがするんですよ。例えばひとつのコーナーは四賀村でやるとかそういうことはできないでしょうか。梓川はたぶん何も出てこないかなと、そういう地域バランスもとった方がいいのかと。来た時に自分の町がないというのはどうかと思います。
- 笹 本: 全体的に周囲に対する思いやりをやっていかないと合併した側からすると何で我々の税金まで使ってやるんだと思うと思います。
- 原 : 小テーマをひとつ入れるだとかそういう形で、例えば天保時代の宿場をひとつ持ってくるだけでも取り込んで上手く散らばらすだけでもいいと思います。
- 菊 池: 後藤先生、常設展示についてご意見ありましたらお願いします。
- 後 藤: 常設展示の具体的な内容についてはここまで話題にもなっていないので機会をとってやっていった方がいいかと思います。
- 菊 池: 関先生、櫻井先生もご意見はいかがでしょうか。
- 櫻 井: 三九郎みたいなものは？
- 木 下: 「道祖神の祭り」という中にそれを考えています。
- 櫻 井: 松本市立博物館が扱っている中では女鳥羽川の災害のところも出ていますし、市川量造、小林有也のことも書いてあるので関連させてここを使わせていただくことも可能かなということでありがたく思っています。
- それから大テーマの中で「山・水・道」の中で「山」の方が関連するものがあまり出てきてない気がするんですが。
- 木 下: 「山・水・道」というテーマで2つ提案をしていただいています、それだけじゃないよということを少し中テーマを選び出すところに紹介する、10年のうちに替えるテーマ設定はきちんとお示しができるようなことをして、その中にいま言ったような視点から欠けているテーマを扱って入れていかなければと思っています。
- それと「私たちの松本市・松本城」という副読本に掲載をされているということについてですけれども、松本城というところも一級の実物があるところで学びの場となっているので、そういうところで機能を生かせるところはそこ、そのようなところで網羅されてなく勉強する機会がないようなものについては少し意識して扱えるようにしていければと思っています。
- 菊 池: 櫻井先生のご意見は博学連携を考えると大事な視点なので常設展示を考える上で小テーマ・中テーマを考える時に忘れずに入れておいていただきたいなと思います。
- 木 下: 教文学習で山辺学校があるんですけれどもそこはみんなが行くところ。担任の先生が興味を持ってくれて「博物館に行ったらここの勉強がで

きるよ」と思ってもらってクラス単位で活用できることってというのが基幹博物館の中で実現していかなければならないのかなと思っています。

菊 池：どう扱うか、どう生かしていくのかというのが大事な視点だと思います。

笹 本：それぞれの方に小テーマ・中テーマで良いからこれを見てもらったら「ああっ！」と言われるようなもの、展示というのは何でもいいというわけでは無くて、展示案を見ていると本が並んでいるだけで面白くない。要するにそれぞれの目玉、私たちが売りに出したい点を個々にあげていってもらいたい。

菊 池：それはいま考えていること？

笹 本：そうです。

事務局：「松本城主」の中では『信府統記』の序文を皆さんに知って欲しいです。

笹 本：それは「思い」の話であって「見せる」という論理ではない。「こういう工夫をしますから見せられます」ということを言ってくれるなら分かります。ありがとうございます。

事務局：「温泉」は「白骨温泉の石灰岩」を見せたいです。四賀の化石館に収蔵されていて昔の木の1メートルぐらいの破片に石灰成分が付着したのがあります。できればそれを触ってもらって質感を確かめてもらえればと。ただ直に触るのは難しいので実物の前にレプリカを置いてそれを触って白い骨に似ていることを感じてもらえればと思っています。

関 沢：「街道の十字路」の関係ですが資料というよりは『善光寺道名所図会』に出てくる松本に関係する色々な図版です。名古屋の出版社が松本を紹介したいと取り上げて、しかも現在の松本にも残っているものがありますので、その中で江戸時代と現代の繋がりが分かりますのでそれを通してさらに資料でもっと詳しいところに掘り下げていくということで名所図会の中の絵図になります。

事務局：「学都の礎」はいま表に出ていませんので『宋版漢書』を見ていただきたいと思っています。それから近代化の「廃仏毀釈」についてですがこれはということよりもこのテーマを通してということを考えていたので申し訳ありませんが即答できません。

木 下：「祈り」のところでは「道祖神信仰と祭り」のところではコトヨウカがあるので基幹博物館ではご案内程度でこれを見て山辺学校で展示をするつもりですのでそちらに行く。それともう一つは寒い時期にお祭りに足を運んで欲しいです。実物ではないですがそういうところに案内したいというのがあります。

「豊かな実りを祈る」は選び出せるものがなかなかないです。

「健やかな暮らしを祈る」は七夕人形はコレクションの売りで、外国の観光客の方が結構興味を持って下さっています。おかげさまで結構定着してきていますのでこれをもっと広げて紹介していきたいと思っています。

「あめ市」の方ではモノというところが難しい部分があるんですけども、いまのあめ市の行事と展示するところでは市神さまを使って昔との違いに気付いて欲しい。それから「なぜ神様がいるのか」、そんな仕掛けみたいところに気付いて欲しいというのがあります。ここですることではないのかもしれませんが、それを見て会津や秋田や山形、そういうところに行って松本と比較するぐらいに繋がっていくといいかなと思っています。

「補助テーマ」は全体が言いたいところになっています。

笹本： 逆に言うと「へえ〜！」というものはいいですか？これではそんなに見たいと思わないです。頭の中で論文を作ってこれを見せたいじゃなくて、博物館の展示というのは「これを見せたいからこういう絵を作っていく」という逆の発想を持って行かないと、今のままだったら見る側としては面白くないです。文字がずらりと並んでいるんだったら図書館へ行けばいいという感じで、申し訳ないけれど良いか悪いかは別として言われた部分だけが目を引きそうで、温泉として人が楽しむとかだったら歴史系の今回のような博物館としては必要ないじゃないかということにならないのでしょうか。

言いたいことはプロの目線ではなく見に行く時に何か面白いものがあるって「これ見に行くからしっかり見よう」という発想にならなければいけないんじゃないかと思うんですが。

後藤： では、笹本さんの思いも伝えるという意味でも「これは見たい」というものを具体的に話した方が早いんじゃないでしょうか？

笹本： 例えば、お城ひとつとってやる時には、ここで出てくるお殿さま云々は必要ではなく、いまのものを使って枳形を使って説明する方が重要だと思います。それで見せたいという意味だとしたらモノ展示で具体的にやっていく時に、例えば普通で言ったならば民俗展示がやれる幅がどれくらいあるかという時には、どれが展示できるかということが関わってくると思います。ここでは「御柱」はしないですか？

木下： 「道祖神の祭り」で扱う部分かなと思います。

笹本： そういうものの方を主体に見せていって「御柱」からものを考えてもらうべきで、いまの市論は中世の市がどうやって開かれるか我々がやっているような話であって、それはモノから考えることには繋がっていないと思います。それぞれのところで「自分たちだったら何をやりたい」かが本来あるはずだと思います。今日はテーマに対して意見を

言う立場で来ているのであって、自分がどうやって展示をしたいかとは別の話だと思うので、意図的に皆さんの意見をうかがっているわけです。

私はずっと歴史館にいて原先生から「展示は思いではなく見せるものだ」と教えられました。その部分がここでは研究者目線でしかないと思っています。以上です。

原：例えば「廃仏毀釈」だったら光背を切られた仏像だとかそのくらいのものを探してもいいのではないかと、そういう象徴的なものがレプリカでもいいので1つずつ欲しいと思います。街道も大きな看板や商家のものなどがあります、そういうものが横にあると読んでもらえるので目を引くようなものが欲しいと思います。引き込まれていくもの、「これは何だろう？」と近づくものがないと文章は読まないと思います。メインのものが何か一つあれば入ってくれると思います。

笹本：原先生がおっしゃったように、私たちの側からやる時に「目を引くもの」という意識を持っていただいて、それぞれの中テーマの中でハッキリ言うと言っていないです。

原：それはレプリカで作ってもいいかと思えます。

菊池：展示をしていていつも感じたのは「展示する側」と「展示を見る側」がかなり違うということなんです。「見る側」の視点に立って展示を考えられるかどうかというのがとても大切なのでぜひそこをお考え下さい。結局文字で判断できるというものは限られます。ユネスコの無形遺産の申請をした時にも最後は写真判定です。

例えば、いまの展示ゾーンから言えば考え方、テーマ設定はこれでいいのかもしれない。ただ、それを具体的に何で受けるのかが分からないと最終決定にならないだろうし、展示をしたときに「これで見てください、これを言いたいんだ」というものが1つか2つあった方がいいのかもしれない。基本的にストーリーを優先するのであれば説明するときにもものがあるかないのかが大事なことです。ストーリーありきでもものが付いてこないのは困ってしまいますし、逆にものだけ見て下さいと言うのも困ってしまうと思います。

関：現場にいる者としては耳が痛いところですが、各大テーマ・中テーマのところでは象徴的なもの、まず目を引くものとして立体物があればいいかなと思います。二次元的、平面的なものはなかなか目に飛び込んでこないですし、興味のある方は熟読して下さると思いますが多数の方はパスしてしまうと思いますので、立体物として目の前にそういったものがあるというところで、そこから導き出される情報は多様なものがあると思います。そういうところを投げかけられるような展示ができればと思います。

私が山岳博物館ということで「山・水・道」で「水と道」に焦点を絞ってしまっていて、この中に「山」がないですが10年の中で検討されるとしても現段階でも旧安曇村が松本市内に入って、北アルプスの特に南部を市内に置いております。三ガク都の一つの「岳都」ということでもありますので上高地周辺、乗鞍などを山の歴史の部分も触れていただければと思います。そんなことで考えると、例えば、松本藩の藩有林としての上高地周辺の木材が切られていたということもあるので、松本城との関わりもあると思いますし、いまの暮らしに繋がる場所で木材の加工、供給というところもあると思います。そういったところも大きな視点から山の部分で実物も伴いながらあればいいと思っています。実物というところから言えば安曇村の資料館の方で伐採に関する道具、まさかりや大きな鋸がかなりあると思いますので、何か象徴になるようなものがそこであるといいと思います。

原 : 例えば、上高地は画像を使う。そういった何か奇をてらったものがあるでもいいと思います。意外と工夫すれば出てくるんじゃないかと思っています。

菊 池 : 展示資料の具体的なものを少しピッチを上げて考えていった方がいいかと思っています。笹本先生から御柱の話が出た時にマズいと思いました。と言うのは展示室の天井高を微妙に反映させなければいけないので展示資料は少し展示設計前にこれは使うものを選んでおいて、それが最低限入る高さを確保する必要がありますから、そういったものを含めて作業を進めていって欲しいと思います。

残り時間がわずかですが、常設展示の展示構想に反映できる場所ですから何かあればご意見を言っていただき、なければ今日の意見を踏まえて更に詰めていただいて、いくつかのテーマ設定・内容についての再考をしていただかなければならない意見も出ていますので、改めて次の部会で提示をしていただければと思います。

この際ですからこれだけは言うておこうという意見はありますでしょうか。

笹 本 : 基本的には「ものの展示」をしたいということで、博物館は最終的には「実物を見せることが伝わってくること」なので作りものをするよりも、きちんとしたものを見せる用意をしておいて、それができないときにどうするかという風に話を持っていった方が助かります。

菊 池 : ありがとうございます。いろいろな意見を踏まえて次の部会に修正案を出していただければと思います。それでは用意された議題はここまです。他の先生方、何かありますでしょうか。なければこれで終了させていただきます。

事務局：長時間ご協議いただきましてありがとうございました。

事務局からですが、展示の関係はこの部会が急ピッチで続けていかなければいけないという中で月1回程度開催させていただきたいと考えておりますので、皆さまお忙しい中だとは思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして「第3回松本市基幹博物館建設検討委員会専門部会」を閉会いたします。お疲れさまでございました。